佳作

五人の「絆」

和歌山市立安原小学校六年（和歌山県）
北野（きたの）　七彩（ななせ）

六月に陸上の全国大会予選をひかえていた私は去年の冬、ひざをこしょうして走ることができなくなってしまいました。私はリレーに出場する予定でチームにめいわくをかけてしまい急にリレーメンバーチェンジとなりました。私は補欠に入りチームが一丸となって大会へ出られるようにマネージャーとして、みんなと一緒に全力をつくすことにしました。

バトンパスの練習では、自分たちの悪い所をどんどん言い合って直したり、自分の走力を極めてタイムがちぢまるよう一人一人が努力してがんばりました。私もみんなと同じ目線となっていっぱい話し合いました。記録会とかの大会ではバトンミスなどが次々とあいつぎ、あまりいい調子じゃなかったけど

「部分のミスは全体のミス」

ということでみんなで泣いて話し合い一生懸命にがんばりました。

こうして、なっとくのいかないレースを残したまま大会当日をむかえました。私はみんなにがんばってもらってほしいと一人一人に手紙をわたし、みんなの手に一言書きました。私はとにかく「自信をもってほしい」ということを願い書きました。私の手には「全国つれってあげる」と書いてくれて胸がジーンとしたし、すごくすごくうれしかったです。

そしてリレー決勝。

私は補欠の百メートルの記録会があったので、第四走者のスタート地点から心臓をバクバクさせながら見ていました。今までの練習を信じてとにかく全力をつくしてほしいと願うばかりで、第四走者をじっと見つめていました。

「ヨーイ、バンッ。」

一走はいきおいよくスタートし、二走へていねいにパス。二走は外側のレーンの人へつめて三走へパス。三走は内側からグイグイとぬき四走へパス。

ぶっちぎりの一位で全国大会出場決定。

いままでの中で一番いいレースだったと思いました。それは、四人じゃなく「五人」の思いがバトンにつまったからだと思いました。

私は第三走者とだきあい、

「ありがとう。」

って何度も言いました。

そうして私が百メートルを走りおえたゴールには四人がまってくれていて胸がいっぱいになりみんなでだきあい泣きました。私は、

「ありがとう。」

の気持ちでいっぱいでそれしか言えませんでした。

表しょう式。

まさか補欠の私も表しょうされるとは思っていませんでした。大きな金メダル。個人で勝ちとった金メダルもあるけど、リレーでとった金メダルの方がおもみがあったし、達成かんがあったしとにか

くめちゃめちゃうれしかったです。本当は自分で走って勝ちたかったけれど、補欠としての立場での勝利で、たくさん学べたり、感じられたことがあって悔いはなかったです。

二〇〇九年六月二十八日は、私たち五人の「絆」が深まった最高の日になりました。

私の大好きな四人へ

「小学生最後の一年に、最高な思い出をくれてありがとう。私の一生の一生の宝物です。」